

基準別評価項目点検総括表

(平成 28 年度末時点)

各部局・関係委員会名：教務部教務課

記入責任者：星田次子

基準 4 教育内容・方法・成果 (1) 教育目標, 学位授与方針, 教育課程の編成・実施方針					
(1) 教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。					
<各部局・関係委員会評定>	0	1	2	3	<input checked="" type="checkbox"/> 4 ※数値を○で囲んでください
<自己点検・評価実施部会等評定>	0	1	2	3	<input checked="" type="checkbox"/> 4 ※数値を○で囲んでください
1. 【自己点検・評価する際に留意した点】					
【評価の視点】					
1. 学士課程・修士課程・博士課程の教育目標の明示					
2. 教育目標と学位授与方針との整合性					
3. 修得すべき学習成果の明示					
【評価に際し留意すべき事項】					
1. 基盤的評価					
①理念・目的を踏まえ, 学部・研究科ごとに, 課程修了にあたって修得しておくべき学習成果, その達成のための諸要件(卒業要件・修了要件)等を明確にした学位授与方針を設定していること。					
【行動計画】					
理念・目的を踏まえた学位授与方針を大学全体, 学部・学科・研究科(前期/後期課程)ごとに設定する。					
2. 【達成状況報告(平成 28 年度末現在)】					
平成 28 年度から新カリキュラムが実施された。さらに文科省よりポリシーの策定及び運用に関するガイドラインが公表されたこと。こうした状況を受け, 本学の理念・目的を踏まえた学位授与方針を教授会, 研究科会議で再検討した。新方針は, 第 9 回大学評議会にて承認された(資料 4-1-1-1, 4-1-1-2)。					
3. 【長所・特色】					
学位授与方針の見直しにあたって, 「カリキュラム・マップ」, 「カリキュラム・ポリシー/ディプロマ・ポリシーとの授業科目の対応表」及び「アセスメント・ポリシー」の作成などを活用した点検活動を実施した。さらに, 公表する際には, 該当する学部・学科の目的を学位授与方針とともに併記することで, 教育目標とポリシーとの連関を明確にした(資料 4-1-1-3)。					
4. 【課題】					
学位授与方針の適切性を定期的に検証する必要がある。					
5. 【全体のまとめ(将来を視野に次年度に向けた発展方策)】					
全学的に学位授与方針の見直しを行った。今後は, 学位授与方針に基づいた教育活動が行われていることを定期的に検証していく必要がある。					
6. 【根拠資料】 資料名を明記し, 現物を添付すること					
1. 資料 4-1-1-1 平成 28 年度第 9 回大学評議会議事録					
2. 資料 4-1-1-2 学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)					
3. 資料 4-1-1-3 「カリキュラム・マップ」, 「カリキュラム・ポリシー/ディプロマ・ポリシーとの授業科目の対応表」, 「アセスメント・ポリシー」					

<自己点検・評価実施部会等による適切性の検証>

<所見>

理念・目的を踏まえた学位授与方針を大学全体，学部・学科・研究科(前期／後期課程)ごとに設定した。また，学位授与方針の見直しにあたって，「カリキュラム・マップ」，「カリキュラム・ポリシー/ディプロマ・ポリシーとの授業科目の対応表」を策定したことは高く評価する。

※各項目について，2～3行を目安に簡潔に記載してください。

基準別評価項目点検総括表

(平成 28 年度末時点)

各部署・関係委員会名：教務部教務課

記入責任者：星田次子

基準 4 教育内容・方法・成果 (1) 教育目標, 学位授与方針, 教育課程の編成・実施方針					
(2) 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。					
<各部署・関係委員会評価>	0	1	2	3	<input checked="" type="checkbox"/> 4 ※数値を○で囲んでください
<自己点検・評価実施部会等評価>	0	1	2	3	<input checked="" type="checkbox"/> 4 ※数値を○で囲んでください
1.【自己点検・評価する際に留意した点】					
【評価の視点】					
1. 教育目標・学位授与方針と整合性のある教育課程の編成・実施方針の明示					
2. 科目区分, 必修・選択の別, 単位数等の明示					
【評価に際し留意すべき事項】					
1. 基盤的评价					
②学生に期待する学習成果の達成を可能とするために, 教育内容, 教育方法などに関する基本的な考え方をまとめた教育課程の編成・実施方針を, 学部・研究科ごとに設定している。					
2. 達成度評価					
①学位授与方針と教育課程の編成・実施方針は連関しているか。					
【行動計画】					
教育目標・学位授与方針と整合性のある教育課程の編成・実施方針を大学全体, 学部・学科・研究科課程ごとに設定する。					
2.【達成状況報告(平成 28 年度末現在)】					
平成 28 年度から新カリキュラムが実施された。さらに文科省よりポリシーの策定及び運用に関するガイドラインが公表されたこと。こうした状況を受け, 本学の理念・目的を踏まえた学位授与方針を教授会, 研究科会議で再検討した。新方針は, 第 9 回大学評議会にて承認された(資料 4-1-1-1, 4-1-1-2)。					
3.【長所・特色】					
学位授与方針の見直しにあたって, 「カリキュラム・マップ」, 「カリキュラム・ポリシー/ディプロマ・ポリシーとの授業科目の対応表」及び「アセスメント・ポリシー」の作成などを活用した点検活動を実施した。さらに, 公表する際には, 該当する学部・学科の目的を学位授与方針とともに, ポリシーの上記に併記することで, 教育目標とポリシーとの連関を明確にした(資料 4-1-1-3)。					
4.【課題】					
教育課程の編成・実施方針の適切性を定期的に検証する必要がある。					
5.【全体のまとめ(将来を視野に次年度に向けた発展方策)】					
全学的に教育課程の編成・実施方針の見直しを行った。今後は, 教育課程の編成・実施方針に基づいた教育活動が行われていることを定期的に検証していく必要がある。					
6.【根拠資料】 資料名を明記し, 現物を添付すること					
1. 資料 4-1-2-1 平成 28 年度第 9 回大学評議会議事録					
2. 資料 4-1-2-2 教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)					
3. 資料 4-1-1-3 「カリキュラム・マップ」, 「カリキュラム・ポリシー/ディプロマ・ポリシーとの授業科目の対応表」, 「アセスメント・ポリシー」					

<自己点検・評価実施部会等による適切性の検証>

<所見>

公表する際には、教育課程の編成・実施方針とともに該当する学部・学科の目的や学位授与方針もポリシーの上記に併記することで、教育目標とポリシーとの連関を明確にしたことは高く評価する。

※各項目について、2～3行を目安に簡潔に記載してください。

基準別評価項目点検総括表

(平成 28 年度末時点)

各部署・関係委員会名：教務部教務課

記入責任者：星田次子

基準 4 教育内容・方法・成果 (1) 教育目標, 学位授与方針, 教育課程の編成・実施方針 (3) 教育目標, 学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針が, 大学構成員(教職員及び学生等)に周知され, 社会に公表されているか。						
<各部署・関係委員会評定>	0	1	2	3	4	※数値を○で囲んでください
<自己点検・評価実施部会等評定>	0	1	2	3	4	※数値を○で囲んでください
1. 【自己点検・評価する際に留意した点】						
【評価の視点】						
1. 周知方法と有効性						
2. 社会への公表方法						
【評価に際し留意すべき事項】						
1. 基盤的評価						
③公的な刊行物, ホームページ等によって, 教職員・学生ならびに受験生を含む社会一般に対して, 学位授与方針, 教育課程の編成・実施方針を周知・公表していること。						
【行動計画】						
教育目標, 学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を大学構成員に周知するとともに, 社会へも公表する。						
2. 【達成状況報告(平成 28 年度末現在)】						
教育目標, 学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針は, 大学構成員には『学生便覧』『履修要項』によって周知に努めている(資料 4-1-3-1, 4-1-3-2)。社会へはホームページや大学ポータル等で公表している。						
3. 【長所・特色】						
学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針とともに該当する学部・学科の目的も併記することで, 教育目標とポリシーとの連関を明確にしている。						
4. 【課題】						
大学案内や入試要項への記載を検討する必要がある。						
5. 【全体のまとめ(将来を視野に次年度に向けた発展方策)】						
現在の取組を継続するとともに, 大学案内や入試要項への記載を検討していく。						
6. 【根拠資料】 資料名を明記し, 現物を添付すること						
1. 資料 4-1-3-1 学生便覧						
2. 資料 4-1-3-2 履修要項						

<自己点検・評価実施部会等による適切性の検証>

<所見>

教育目標，学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針について，大学構成員には『学生便覧』『履修要項』によって周知に努めている。更にホームページや大学ポर्टレート等で公表するなど適切な周知及び公表していることを評価する。

※各項目について，2～3行を目安に簡潔に記載してください。

基準別評価項目点検総括表

(平成28年度末時点)

各部局・関係委員会名：教務部教務課

記入責任者：星田次子

基準4 教育内容・方法・成果 (1) 教育目標, 学位授与方針, 教育課程の編成・実施方針					
(4) 教育目標, 学位授与方針及び教育課程の編成方針の適切性について定期的に検証を行っている。					
<各部局・関係委員会評価>	0	1	2	<input checked="" type="checkbox"/> 3	4 ※数値を○で囲んでください
<自己点検・評価実施部会等評価>	0	1	2	<input checked="" type="checkbox"/> 3	4 ※数値を○で囲んでください
1.【自己点検・評価する際に留意した点】					
【評価の視点】					
【評価に際し留意すべき事項】					
2. 達成度評価					
②教育目標, 学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針の適切性を検証するにあたり, 責任主体・組織, 権限, 手続を明確にしているか。また, その検証プロセスを適切に機能させ, 改善につなげているか。					
【行動計画】					
「カリキュラム・アセスメント・チェックリスト」「カリキュラム・ポリシー/ディプロマ・ポリシーとの授業科目の対応表」の見直しをする。					
2.【達成状況報告(平成28年度末現在)】					
教授会, 学科会議, 研究科会議等において, 大学全体, 各学部, 各学科, 各研究科(前期課程/後期課程)の「カリキュラム・アセスメント・チェックリスト」を再検討している(資料4-1-4-1)。また, 各学科で「カリキュラム・ポリシー/ディプロマ・ポリシーとの授業科目の対応表」の見直しを実施した(資料4-1-4-2)。					
3.【長所・特色】					
ポリシーと各授業科目との関係性やポリシーに基づいた学習成果の達成状況を計るために各種チェックリストを準備している。					
4.【課題】					
各種チェックリストを作成することで, 教育目標, 学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針の適切性について検証する準備が整った。今後は, 鹿児島国際大学自己点検・評価規程に基づき, 各部局・関係委員会において自己点検・評価を行ったうえで, 教務部会において継続的に適切性の検証を行うことが必要である。					
5.【全体のまとめ(将来を視野に次年度に向けた発展方策)】					
今後は, 鹿児島国際大学自己点検・評価規程に基づき, 各部局・関係委員会において自己点検・評価を行ったうえで, 教務部会において継続的に適切性の検証を行うことが必要である。					
6.【根拠資料】 資料名を明記し, 現物を添付すること					
1. 資料4-1-4-1 カリキュラム・アセスメント・チェックリスト					
2. 資料4-1-4-2 カリキュラム・ポリシー/ディプロマ・ポリシーとの授業科目の対応表					

<自己点検・評価実施部会等による適切性の検証>

<所見>

「カリキュラム・ポリシー／ディプロマ・ポリシーとの授業科目の対応表」の見直しをとおして、教育目標、学位授与方針及び教育課程の編成方針の適切性について定期的な検証を実施していることを評価するが、次年度以降の継続的な各種チェックリストによる検証に期待する。

※各項目について、2～3行を目安に簡潔に記載してください。

基準別評価項目点検総括表(様式)

(平成 28 年度末時点)

各部局・関係委員会名：教務部教務課

記入責任者：星田次子

基準4 教育内容・方法・成果 (2) 教育課程・教育内容						
(1) 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。						
<各部局・関係委員会評定>	0	1	2	<input checked="" type="checkbox"/> 3	4	※数値を○で囲んでください
<自己点検・評価実施部会等評定>	0	1	2	<input checked="" type="checkbox"/> 3	4	※数値を○で囲んでください
1.【自己点検・評価する際に留意した点】						
【評価の視点】						
1. 必要な授業科目の開設状況						
2. 順次性のある授業科目の体系的配置						
3.【学士】専門教育・教養教育の位置づけ						
4.【修士・博士】コースワークとリサーチワークのバランス						
【評価に際し留意すべき事項】						
1. 基盤的評価						
①【学士】幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する教育課程が編成されていること。						
②【修士・博士】コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせ、教育を行っていること。						
2. 達成度評価						
①教育課程の編成・実施方針に基づいた教育課程や教育内容の適切性を明確に示しているか。 ・学生の順次的・体系的な履修への配慮						
②教育課程の適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手続を明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか。						
【行動計画】						
「カリキュラム・ポリシー／ディプロマ・ポリシーとの授業科目の対応表」、「カリキュラム・アセスメント・チェックリスト」を作成し、それらに基づきアセスメント・ポリシーを設定する。教育課程の編成・実施方針に基づき、カリキュラム・マップ、ナンバリング・コードの見直しを行う。						
2.【達成状況報告(平成28年度末現在)】						
「カリキュラム・アセスメント・チェックリスト」「カリキュラム・ポリシー／ディプロマ・ポリシーとの授業科目の対応表」を基にアセスメント・ポリシーを策定中である。また、教育課程の編成・実施方針に基づき、カリキュラム・マップ、ナンバリング・コードの見直しを行った(資料4-2-1-1, 4-2-1-2)。						
3.【長所・特色】						
科目の体系的性、履修の順序を明示するために、カリキュラム・マップやナンバリング・コードを整備している。大学院においては、コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせて教育を行っている。また、「カリキュラム・アセスメント・チェックリスト」「カリキュラム・ポリシー／ディプロマ・ポリシーとの授業科目の対応表」により授業科目の適切性を検証する体制を整えている。						
4.【課題】						
各種チェックリストを作成することで、授業科目の適切性等について検証する準備が整った。今後は、鹿児島国際大学自己点検・評価規程に基づき、各部局・関係委員会において自己点検・評価を行ったうえで、教務部会において継続的に検証を行うことが必要である。						

5.【全体のまとめ（将来を視野に次年度に向けた発展方策）】

今後は、鹿児島国際大学自己点検・評価規程に基づき、各部局・関係委員会において自己点検・評価を行ったうえで、教務部会において継続的に検証を行うことが必要である。

6.【根拠資料】 資料名を明記し、現物を添付すること

1. 資料 4-2-1-1 カリキュラム・マップ
2. 資料 4-2-1-2 ナンバリング・コード

<自己点検・評価実施部会等による適切性の検証>

<所見>

教育課程の編成・実施方針に基づいた、カリキュラム・マップ、ナンバリング・コードの見直しにより授業科目の体系性が明示できたこと、体系に従って履修を指導するツールが準備されたことは評価したい。また、「カリキュラム・ポリシー／ディプロマ・ポリシーとの授業科目の対応表」により授業科目の適切性を検証する体制の整備は評価できる。

※各項目について、2～3行を目安に簡潔に記載してください。

基準別評価項目点検総括表(様式)

(平成 28 年度末時点)

各部局・関係委員会名：教務部教務課

記入責任者：星田次子

基準4 教育内容・方法・成果 (2) 教育課程・教育内容						
(2) 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。						
<各部局・関係委員会評価>	0	1	2	3	4	※数値を○で囲んでください
<自己点検・評価実施部会等評価>	0	1	2	3	4	※数値を○で囲んでください
1.【自己点検・評価する際に留意した点】						
【評価の視点】						
1.【学士】学士課程教育に相応しい教育内容の提供						
2.【学士】初年児教育・高大連携に配慮した教育内容						
3.【修士・博士】専門分野の高度化に対応した教育内容の提供						
【評価に際し留意すべき事項】						
1. 基盤的評価						
①【学士】幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する教育課程が編成されていること。						
②【修士・博士】コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせ、教育を行っていること。						
2. 達成度評価						
①教育課程の編成・実施方針に基づいた教育課程や教育内容の適切性を明確に示しているか。 ・学生の順次的・体系的な履修への配慮						
②教育課程の適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手続を明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか。						
【行動計画】						
「カリキュラム・アセスメント・チェックリスト」「カリキュラム・ポリシー／ディプロマ・ポリシーとの授業科目の対応表」を作成し、それらに基づきアセスメント・ポリシーを設定する。教育課程の編成・実施方針に基づき、カリキュラム・マップ、ナンバリング・コードの見直しを行う。						
2.【達成状況報告(平成28年度末現在)】						
「カリキュラム・ポリシー／ディプロマ・ポリシーとの授業科目の対応表」、「カリキュラム・アセスメント・チェックリスト」を基にアセスメント・ポリシーを策定中である。また、教育課程の編成・実施方針に基づき、カリキュラム・マップ、ナンバリング・コードの見直しを行った(資料4-2-2-1, 4-2-2-2)。また、全学的な取組として、文部科学省「地(知)の拠点(COC)」認定事業として、「フィールドワークをベースにした地域が求める人材育成プログラム」を提供している(資料4-2-2-3)。						
3.【長所・特色】						
「カリキュラム・ポリシー／ディプロマ・ポリシーとの授業科目の対応表」により教育課程の適切性を検証する体制を整えている。						
文部科学省「地(知)の拠点(COC)」認定事業として、「フィールドワークをベースにした地域が求める人材育成プログラム」を提供している(資料4-2-2-3)。						
4.【課題】						
各種チェックリストを作成することで、教育課程の適切性等について検証する準備が整った。今後は、鹿児島国際大学自己点検・評価規程に基づき、各部局・関係委員会において自己点検・評価を行ったうえで、教務部会において継続的に検証を行うことが必要である。						

5. 【全体のまとめ（将来を視野に次年度に向けた発展方策）】

今後は、鹿児島国際大学自己点検・評価規程に基づき、各部局・関係委員会において自己点検・評価を行ったうえで、教務部会において継続的に検証を行うことが必要である。

6. 【根拠資料】 資料名を明記し、現物を添付すること

1. 資料 4-2-1-1 カリキュラム・マップ
2. 資料 4-2-1-2 ナンバリング・コード
3. 資料 4-2-2-3 2016（平成 28）年度 履修要項 PP39-42

<自己点検・評価実施部会等による適切性の検証>

<所見>

各種チェックリストを作成することで、教育内容の適切性等について検証する体制が整備できたことは評価するが、検証に至っていないため次年度の検証に期待する。

※各項目について、2～3行を目安に簡潔に記載してください。

基準別評価項目点検総括表(様式)

(平成 28 年度末時点)

各部局・関係委員会名：教務部教務課

記入責任者：星田次子

基準4 教育内容・方法・成果 (3) 教育方法						
(1) 教育方法及び学習指導は適切か。						
<各部局・関係委員会評定>	0	1	2	3	4	※数値を○で囲んでください
<自己点検・評価実施部会等評定>	0	1	2	3	4	※数値を○で囲んでください
1.【自己点検・評価する際に留意した点】						
【評価の視点】						
1. 教育目標の達成に向けた授業形態（講義・演習・実験等）の採用						
2. 履修科目登録の上限設定，学習指導の充実						
3. 学生の主体的参加を促す授業方法						
4.【修士・博士】研究指導計画に基づく研修指導・学位論文作成指導						
【評価に際し留意すべき事項】						
1. 基盤的評価						
①当該学部・研究科の教育目標を達成するために必要となる授業の形態を明らかにしていること。						
②【学士】1年間に履修登録できる単位数の上限を50単位未満に設定していること。これに相当しない場合，単位の実質化を図る相応の措置がとられていること。						
③【修士・博士】研究指導計画に基づく研究指導，学位論文作成指導を行っていること。						
2. 達成度評価						
①教育課程の編成・実施方針に基づき，各授業科目において，適切な教育方法をとっているか。						
【行動計画】						
ナンバリング・コードにより授業の形態を明らかにする。学科・学年によっては，1年間に履修登録できる単位数の上限が50単位となっているが，前期GPAが1.5未満の学生に対して適切な指導を行うことで，単位制度の実質化を図る。						
2.【達成状況報告（平成28年度末現在）】						
ナンバリング・コードの見直しを行った。また，前学期GPAが1.5未満の学生については，履修規程に基づき適切に学習支援を行った。大学院についても研究計画書にもとづき適切に学位論文作成指導を行った（資料4-3-1-1）。						
3.【長所・特色】						
ナンバリング・コードにより授業形態を明らかにしている。また，前期GPAが1.5未満の学生に適切な支援を行うことで，学習行動の改善や中退学の予防につながっている。						
4.【課題】						
前期GPAが1.5未満の学生に適切な学習支援を行うことで単位の实質化を図っているが，将来的には1年間に履修登録できる単位数の上限の見直しが必要である。						
5.【全体のまとめ（将来を視野に次年度に向けた発展方策）】						
各学部・学科の学習支援状況を把握するとともに適切な学習支援を行う。						
6.【根拠資料】 資料名を明記し，現物を添付すること						
1. 資料4-3-1-1 履修規程						

<自己点検・評価実施部会等による適切性の検証>

<所見>

ナンバリング・コードにより授業の方法及び形態を明らかにしていることを評価する。また、前期 GPA が 1.5 未満の学生に対して適切な学習指導をおこなっていることを高く評価する。

※各項目について、2～3行を目安に簡潔に記載してください。

基準別評価項目点検総括表

(平成 28 年度末時点)

各部局・関係委員会名：研究教育開発センター

記入責任者：大里和博

基準 4 教育内容・方法・成果 (3) 教育方法						
(1) 教育方法および学習指導は適切か。						
<各部局・関係委員会評定>	0	1	2	3	<input checked="" type="checkbox"/> 4	※数値を○で囲んでください
<自己点検・評価実施部会等評定>	0	1	2	3	<input checked="" type="checkbox"/> 4	※数値を○で囲んでください
1.【自己点検・評価する際に留意した点】						
【評価の視点】						
・学生の主体的参加を促す授業方法						
【評価に際し留意すべき事項】						
〔基盤評価〕						
①当該学部・研究科の教育目標を達成するために必要となる授業の形態を明らかにしていること。						
②【学士】1年間に履修登録できる単位数の上限を50単位未満に設定していること。これに相当しない場合、単位の実質化を図る相応の措置がとられていること。						
〔達成度評価〕						
①教育課程の編成・実施方針に基づき、各授業科目において、適切な教育方法をとっているか。						
【行動計画】						
学生の主体的参加を促すために授業にアクティブ・ラーニングを導入することを推進する。						
①次年度の授業内容（授業計画）を作成する際、可能な限り、全ての授業の中でアクティブ・ラーニングを取り入れるよう啓発を行う。						
②アクティブ・ラーニングをテーマにした講演会を開催する。						
2.【達成状況報告（平成 28 年度末現在）】						
次年度の授業内容（授業計画）を作成する際、学生の主体的参加を促すため「シラバス作成のガイドライン(平成 29 年度)」において、可能な限り、全ての授業の中でアクティブ・ラーニングを取り入れるよう促している（資料 4-3-1-1）。また、その一環として、アクティブ・ラーニングをテーマにした講演会を開催した（資料 4-3-1-2）。						
3.【長所・特色】						
学生の主体的参加を促すため「シラバス作成のガイドライン(平成 29 年度)」を作成し、可能な限り、全ての授業の中でアクティブ・ラーニングを取り入れるよう促している（資料 4-3-1-1）。						
4.【課題】						
アクティブ・ラーニング等の教育方法の導入を推進し、引き続き、関連する講演会を開催する必要がある。今後の取り組みについて検討する必要がある。						
5.【全体のまとめ（将来を視野に次年度に向けた発展方策）】						
昨年に引き続き、同様の取り組みを行うほか、研究教育開発センター会議構成員及び関係部局職員に外部研修会等の参加を呼びかけ、それらの情報を基にアクティブ・ラーニング導入についての検討を行う。						

6.【根拠資料】 資料名を明記し、現物を添付すること

資料 4-3-1-1 「シラバス作成のガイドライン（平成 29 年度）」

資料 4-3-1-2 「①第 1 回 FD 講演会 平成 28 年 10 月 28 日開催「協同学習の知見から学ぶアクティブ・ラーニング型授業の工夫」、②第 2 回 FD 講演会 平成 29 年 3 月 16 日開催「学力の 3 要素を育成する初年次教育および専門基礎教育」

<自己点検・評価実施部会等による適切性の検証>

<所見>

教育課程の編成・実施方針に基づき、各授業科目において、アクティブ・ラーニングの導入を推進するなど教育方法が適切に実施されている。次年度以降には、ひきつづきアクティブ・ラーニングをテーマにした講演会を開催するなどアクティブ・ラーニングの導入を進め、授業改善に繋げてほしい。

基準別評価項目点検総括表(様式)

(平成 28 年度末時点)

各部署・関係委員会名：教務部教務課

記入責任者：星田次子

基準4 教育内容・方法・成果 (3) 教育方法					
(2) シラバスに基づいて授業が展開されているか。					
<各部署・関係委員会評価>	0	1	2	3	<input checked="" type="checkbox"/> 4 ※数値を○で囲んでください
<自己点検・評価実施部会等評価>	0	1	2	3	<input checked="" type="checkbox"/> 4 ※数値を○で囲んでください
1.【自己点検・評価する際に留意した点】					
【評価の視点】					
1. シラバスの作成と内容の充実					
2. 授業内容・方法とシラバスの整合性					
【評価に際し留意すべき事項】					
1. 基盤的评价					
⑤授業の目的, 到達目標, 授業内容・方法, 1年間の授業計画, 成績評価方法・基準等を明らかにしたシラバスを, 統一した書式を用いて作成し, かつ, 学生にあらかじめこれを公表していること。					
2. 達成度評価					
①単位制度の趣旨に照らし, 学生の学修が行われるシラバスとなるよう, またシラバスに基づいた授業を展開するため, 明確な責任体制のもと, 恒常的かつ適切に検証を行い, 改善につなげているか。					
【行動計画】					
シラバスの到達目標の見直しを行う。また, 授業アンケートやフィードバックシートによりシラバスに基づいた授業が行われているかの検証と改選を行う。					
2.【達成状況報告(平成28年度末現在)】					
Web 上でシラバスと履修登録科目をリンクさせ, 学生がシラバスを容易に確認できるようにしている。また, 学部長・学科長等により, 毎年シラバスの表記法, 内容についてチェックを行い, 改善に努めている。なお, ポリシーの観点別整理に伴い, シラバスの到達目標の観点整理を行った。また, 授業アンケート(学部対象), フィードバックシート(研究科対象)により, シラバスに基づいた授業が行われているかどうか検証した(資料 4-3-2-1, 4-3-2-2, 4-3-2-3)。					
3.【長所・特色】					
シラバスの到達目標を「知識・技能」「思考・判断・表現」「関心・意欲・態度」「キャリアデザイン」の観点に整理することにより, 学力の3要素を踏まえた授業を行うこととしている。また, 授業アンケートやフィードバックシートにより常に授業改善を促す体制を整えている。					
4.【課題】					
個々のシラバスの内容充実を図っていくとともにシラバスに基づいた授業が行われているかの検証を引き続き行っていく。					
5.【全体のまとめ(将来を視野に次年度に向けた発展方策)】					
個々のシラバスの内容充実を図っていくとともにシラバスに基づいた授業が行われているかの検証を引き続き行っていく。					

6.【根拠資料】 資料名を明記し、現物を添付すること

1. 資料 4-3-2-1 シラバス様式
2. 資料 4-3-2-2 授業アンケート様式
3. 資料 4-3-2-3 フィードバックシート様式

<自己点検・評価実施部会等による適切性の検証>

<所見>

シラバスの到達目標を「知識・技能」「思考・判断・表現」「関心・意欲・態度」「キャリアデザイン」の観点に整理することにより、学力の3要素を踏まえた授業展開への取り組みを評価する。

※各項目について、2～3行を目安に簡潔に記載してください。

基準別評価項目点検総括表(様式)

(平成 28 年度末時点)

各部署・関係委員会名：教務部教務課

記入責任者：星田次子

基準4 教育内容・方法・成果 (3) 教育方法						
(3) 成績評価と単位認定は適切に行われているか。						
<各部署・関係委員会評価>	0	1	2	3	<input checked="" type="checkbox"/> 4	※数値を○で囲んでください
<自己点検・評価実施部会等評価>	0	1	2	3	<input checked="" type="checkbox"/> 4	※数値を○で囲んでください
1.【自己点検・評価する際に留意した点】						
【評価の視点】						
1. 厳格な成績評価（評価方法・評価基準の明示）						
2. 単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性						
3. 既修得単位認定の適切性						
【評価に際し留意すべき事項】						
1. 基盤的評価						
⑤授業の目的，到達目標，授業内容・方法，1年間の授業計画，成績評価方法・基準等を明らかにしたシラバスを，統一した書式を用いて作成し，かつ，学生にあらかじめこれを公表していること。						
⑥授業科目の内容，形態等を考慮し，単位制度の趣旨に沿って単位を設定していること。						
⑦既修得単位の認定を，大学設置基準等に定められた基準に基づいて，適切な学内基準を設けて実施していること。						
【行動計画】						
学生に対してあらかじめシラバスに評価方法・評価基準を明示するとともに，厳格な成績評価を行う。また，単位制度の趣旨に沿った単位認定を行う。						
2.【達成状況報告（平成 28 年度末現在）】						
すべてのシラバスに評価方法・評価基準をあらかじめ明示した。また，試験施行細則に成績評価の基準に従って，厳格に成績評価を行った。また，学則第 20 条及び既修得単位の認定及び単位の授与に関する規程に基づき適切に単位認定を行った（資料 4-3-3-1，資料 4-3-3-2）。						
3.【長所・特色】						
授業科目の内容，形態等を考慮し，単位制度の趣旨に沿って単位を設定している。また，学則第 20 条及び既修得単位の認定及び単位の授与に関する規程に基づき適切に単位認定を行っている。						
4.【課題】						
なし						
5.【全体のまとめ（将来を視野に次年度に向けた発展方策）】						
今後も適切に単位認定を行っていく。						
6.【根拠資料】 資料名を明記し，現物を添付すること						
1. 資料 4-3-3-1 学則（第 20 条）						
2. 資料 4-3-3-2 既修得単位の認定及び単位の授与に関する規程						

<自己点検・評価実施部会等による適切性の検証>

<所見>

試験施行細則に成績評価の基準を示すなど学則第20条及び既修得単位の認定並びに単位の授与に関する規程に基づき適切に単位認定を行っていることを高く評価する。

※各項目について、2～3行を目安に簡潔に記載してください。

基準別評価項目点検総括表

(平成 28 年度末時点)

各部局・関係委員会名：研究教育開発センター

記入責任者：大里 和博

基準 4 教育内容・方法・成果 (3) 教育方法						
(4) 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。						
<各部局・関係委員会評定>	0	1	2	<input checked="" type="checkbox"/> 3	4	※数値を○で囲んでください
<自己点検・評価実施部会等評定>	0	1	2	<input checked="" type="checkbox"/> 3	4	※数値を○で囲んでください
1. 【自己点検・評価する際に留意した点】						
【評価の視点】						
・授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施						
【評価に際し留意すべき事項】						
〔基盤評価〕						
⑧教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした、組織的な研修・研究の機会を設けていること。						
〔達成度評価〕						
③教育内容・方法等の改善を図るための責任主体・組織、権限、手続を明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか。						
【行動計画】						
FD講演会や授業公開・授業参観・授業アンケート等により、教育内容・教育方法の向上を意図した研修会等を開催する。						
2. 【達成状況報告（平成 28 年度末現在）】						
FD講演会や授業公開・授業参観・授業アンケート等により、教育内容・教育方法の向上を意図した取組を実施した。具体的には、アクティブ・ラーニングをテーマにした講演会を毎年開催している（資料 4-3-4-1）ほか、授業公開・参観期間の拡大や、授業アンケートを全科目に広げるなど、改善を図った（資料 4-3-4-2）。						
3. 【長所・特色】						
アクティブ・ラーニングを可能なかぎり全ての授業の中で取り入れるよう「シラバス作成のガイドライン（平成 29 年度）」に明示し、導入推進を図っている（資料 4-3-4-3）。						
4. 【課題】						
昨年に引き続き、同様の取り組みを行うほか、研究教育開発センター会議の構成員に対し、外部研修会等の参加を呼びかけ、それらの情報を基に本学における検討を行う必要がある。						
5. 【全体のまとめ（将来を視野に次年度に向けた発展方策）】						
教育内容・教育方法の向上を意図した取り組みを各部局・関係委員会において自己点検・評価を継続的に実施する必要がある。						
6. 【根拠資料】 資料名を明記し、現物を添付すること						
資料 4-3-4-1 「①第 1 回 FD 講演会 平成 28 年 10 月 28 日開催「協同学習の知見から学ぶアクティブ・ラーニング型授業の工夫」、②第 2 回 FD 講演会 平成 29 年 3 月 16 日開催「学力の 3 要素を育成する初年次教育および専門基礎教育」						
資料 4-3-4-2 「平成 29 年度 研究教育開発センター活動方針」						
資料 4-3-4-3 「シラバス作成のガイドライン（平成 29 年度）」						

<自己点検・評価実施部会等による適切性の検証>

<所見>

組織的研修としてFD講演会等を開催し、アクティブ・ラーニングを可能な限り全ての授業の中で取り入れるようにガイドラインを作成するなど授業の内容および方法の改善を図る取り組みが十分できている。課題として挙げている「研究教育開発センター会議の構成員に対し、外部研修会等の参加を呼びかけ、それらの情報を基に本学における検討」への取り組みに期待する。

基準別評価項目点検総括表(様式)

(平成 28 年度末時点)

各部署・関係委員会名：教務部教務課

記入責任者：星田次子

基準4 教育内容・方法・成果 (4) 成果						
(1) 教育目標に沿った成果が上がっているか。						
<各部署・関係委員会評価>	0	1	2	3	4	※数値を○で囲んでください
<自己点検・評価実施部会等評価>	0	1	2	3	4	※数値を○で囲んでください
1.【自己点検・評価する際に留意した点】						
【評価の視点】						
1. 学生の学修成果を測定するための評価指標の開発とその適用						
2. 学生の自己評価, 卒業後の評価(就職先の評価, 卒業生評価)						
【評価に際し留意すべき事項】						
2. 達成度評価						
①課程修了時における学習成果を測定するための評価指標を開発し, 適切に成果を測るよう努めているか。						
【行動計画】						
カリキュラム・アセスメント・チェックリストを作成するとともに, Web キャリア・ポートフォリオの活用と改善を進める。						
2.【達成状況報告(平成 28 年度末現在)】						
ポリシーにもとづいた学修成果を測定するために, カリキュラム・アセスメント・チェックリストの策定を行っている。また, これまで全学で導入し, その活用を促している Web キャリア・ポートフォリオについては, 履修カルテの機能を持たせるよう改善を検討している(資料 4-4-1-1)。						
3.【長所・特色】						
学生は Web キャリア・ポートフォリオを活用することで自身の学習成果を確認できるようになっている(資料 4-4-1-1)。						
4.【課題】						
学生の自己評価, 卒業後の評価(就職先の評価, 卒業生評価)は次年度以降取り組む予定である。						
5.【全体のまとめ(将来を視野に次年度に向けた発展方策)】						
カリキュラム・アセスメント・チェックリストを作成し, 学生の学習成果を測定する。併せて, ルーブリックなどの評価指標の検討を行う。						
6.【根拠資料】 資料名を明記し, 現物を添付すること						
1. 資料 4-4-1-1 2016(平成 28)年度 履修要項 pp45-46						

<自己点検・評価実施部会等による適切性の検証>
<所見>
ポリシーに照らし合わせて学修成果を測定するために, カリキュラム・アセスメント・チェックリストの策定を行い, 学習成果を測定するための評価指標として活用できるようになったことは高く評価する。また, Web キャリア・ポートフォリオに履修カルテの機能を持たせるよう改善に期待する。

※各項目について, 2~3 行を目安に簡潔に記載してください。

基準別評価項目点検総括表(様式)

(平成 28 年度末時点)

各部署・関係委員会名：教務部教務課

記入責任者：星田次子

基準4 教育内容・方法・成果 (4) 成果					
(2) 学位授与(卒業・修了認定)は適切に行われているか。					
<各部署・関係委員会評定>	0	1	2	3	<input checked="" type="checkbox"/> 4 ※数値を○で囲んでください
<自己点検・評価実施部会等評定>	0	1	2	3	<input checked="" type="checkbox"/> 4 ※数値を○で囲んでください
1.【自己点検・評価する際に留意した点】					
【評価の視点】					
1. 学位授与基準, 学位授与手続の適切性					
2. 学位審査及び修了認定の客観性・厳格性を担保する方策					
【評価に際し留意すべき事項】					
1. 基盤的評価					
①卒業・修了の要件を明確にし, 履修要綱等によってあらかじめ学生に明示していること。					
②【修士・博士】学位授与にあたり論文(または特定の課題についての研究の成果)の審査を行う場合にあっては, 学位に求める水準を満たす論文(または特定の課題についての研究の成果)であるか否かを審査する基準を, あらかじめ学生に明示していること。					
2. 達成度評価					
①学位授与にあたり, 明確な責任体制のもと, 明文化された手続に従って, 学位を授与しているか。					
【行動計画】					
卒業・修了の要件をあらかじめ学生に明示し, 厳格な成績評価を行う。					
2.【達成状況報告(平成28年度末現在)】					
学則第35条及び大学院学則第17条により卒業・修了の要件を明確にし, 学生便覧等であらかじめ学生に明示し, 学位を授与している。大学院においては, 学位論文(修士・博士)審査基準を明確にし, 学生便覧で明示し, 学位を授与している。(資料4-4-2-1, 資料4-4-2-2, 資料4-4-2-3)					
3.【長所・特色】					
学則第47条及び大学院学則第50条の2により学位授与にあたっての責任体制を明確にし, 適切に学位授与を行っている。					
4.【課題】					
なし					
5.【全体のまとめ(将来を視野に次年度に向けた発展方策)】					
学生に対し, 今後も引き続き卒業・修了の要件を明確に明示し, 適切な学位授与を行う。					
6.【根拠資料】 資料名を明記し, 現物を添付すること					
1. 資料4-4-2-1 学則(第35条, 第47条)					
2. 資料4-4-2-2 大学院学則(第17条)					
3. 資料4-4-2-3 学位論文(修士・博士)審査基準					

<自己点検・評価実施部会等による適切性の検証>

<所見>

学則及び大学院学則により卒業・修了の要件を明確にし、学生便覧等であらかじめ学生に明示し、学位を授与していることを高く評価する。

※各項目について、2～3行を目安に簡潔に記載してください。